



Listen closely and you will hear stories carried on the breeze that speak of how people lived and loved. It is eternally beautiful, respectable and noble.



雪ん子



邑久郷土資料館 地図p13

「喜之助記念室」「喜之助フェス記念室」に喜之助人形をはじめとする人形、関連資料等を展示。

主な作品

少年太閤記(昭和30年)、宝島(31)、竹取の翁(31)、雪ん子(32)、孫悟空(34)、宇田船シロカ(35)、ポポロン(36)、双子のこくま(37)、銀河少年隊(38)、鶴の笛(41)、黒姫ものがたり(42)、ダット君(42)、赤鬼ボンゴ(42)、明治はるあき(43)、空中都市008(44)、つる(45)、ブルル君(48)、泣いた赤鬼(48)、竜の子太郎(49)、ぼっこうさん(50)、百合若(50)、わらべ唄・夏冬(52)、ヘンゼルとグレーテル(53)

世界的系操り人形師として知られる竹田喜之助も瀬戸内市に生まれました。人形に機械工学の知識と技術を取り入れる一方で、使用材料に画期的な工夫を凝らし、従来の人形に新しい生命を吹き込みました。どの人形も彼の優しく温かく厳しい人柄を映し出し、見る者に深い感動を与えます。



竹田喜之助(1923~1979)

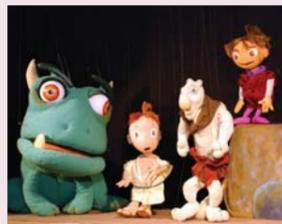
大正12(1923)年、邑久町尾張生まれ。本名・岡本隆郎。東京大学在籍中に結城孫太郎の一座(後の竹田三之助一座)に入座。昭和30(1955)年、竹田人形座が旗揚げされ、竹田喜之助となる。「雪ん子」が昭和32(1957)年文部省芸術奨励賞受賞。多くの民話や童話も手がけ、約2,600体に及ぶ人形を制作。

竹田喜之助



喜之助フェスティバル

世界的系操り人形師・竹田喜之助の偉業を後世に伝え、人形劇を愛する人々の交流と地域文化の発展を目的に毎年開催。昭和63(1988)年にはじめて開催して以来、国内外で活躍する多数のプロ劇団や地元アマチュア劇団が参加。また海外の劇団の参加もあり、まさに国内屈指の人形劇の祭典。質の高い人形劇が披露され、毎年多くの人々にぎわいます。



Great artists from Setouchi City

A number of excellent artists have gone out to the world from Setouchi City. Takehisa Yumeji (a lyric painter from the Taisho Era) caught the spirit of the time with his prominent portraits of a woman. His work continues to impress many people today. Another great artist was Takeda Kinusuke, a world famous marionette maker. He created artistic marionette by innovating clockwork and using new materials. Setouchi City hosts a marionette play festival "Kinosuke Festival" every year in memory of his great achievement.

せとナビ

SETOUCHI NAVIGATOR

竹田喜之助さんは日本の人形劇界では不世出の職人・技術者といわれています。喜之助人形は命の輝きに溢れ、うっとりするような美しさがあり、見ていると心の中の煩惱を忘れられるかのようです。また、喜怒哀楽に満ちていて、言葉で表現するよりも、人形と向き合っていたいただければ、その深みと重みを味わっていただけたと思います。「喜之助フェスティバル」では、子どもから大人まで楽しめる質の高い人形劇を観ていただけます。瀬戸内市へぜひお越しください。



内田明生さん(邑久町尾張) 竹田喜之助顕彰会会長で瀬戸内市文化研究会会長。地域の歴史文化に造詣が深い。

瀬戸内市は、偉大な芸術家を輩出しています。いわずと知れた大正浪漫の叙情画家・竹久夢二。恋に生き、そしてそれを自らの芸術へと昇華させたこの偉大な芸術家は、この地に生まれました。この瀬戸内市の穏やかなやさしい気候が、彼に影響を与えたのでしょうか。彼の作品からは、瀬戸内の海のもよ風のような上品な穏やかさと優雅さを感じられます。



竹久夢二(1884~1934)

明治17(1884)年、邑久郡本庄村(現在の瀬戸内市邑久町本庄)で生まれ、16歳までこの地で過ごす。独学で絵を学び、21歳で挿絵画家としてデビュー。明治42(1911)年に出版した『夢二画集 春の巻』で一躍人気画家に。特有の美人画を確立したほか、多くの詩も残す。

竹久夢二



舞姫(夢二郷土美術館 所蔵)



少年山荘 地図p13 夢二自らの設計の東京のアトリエを復元したもの。夢二生前の写真などを展示。



夢二生家 地図p13 夢二が16歳まで過ごした生家。当時のままの夢二の部屋にデッサンや版画も展示。

瀬戸内浪漫
 そのよ風の記憶は、人々が生き愛した証をそつと語りかける。その証は永遠に美しく、気高く、尊いものなのだ。

